



岡村 道雄さんの紹介

おかむら みちお
岡村 道雄（奥松島縄文村歴史資料館名誉館長）

新潟県上越市出身。東北大学を卒業後、現在の東北歴史博物館の前身である東北歴史資料館、文化庁、奈良文化財研究所を経て、現在、奥松島縄文村歴史資料館名誉館長。

文化庁勤務時代には、福島市内の宮遺跡、和台遺跡の史跡指定へご尽力いただきました。その後も宮遺跡整備指導委員会委員として、じょーもひあ宮窓の整備・活用にご尽力をいただきました。また平成22年、平成28年に福島市で開催した「縄文シティサミット」ではコーディネーターを、じょーもひあ宮窓の講座では講師をつとめていただいております。

劇あらすじ

縄文時代晚期。現在の福島市飯坂にある小さな村。飢餓で苦しむ村に、稻作定住を始めた村から使者がやってきて「稻作」をすすめられる。それまでの生き様を大きく変えることになると悩む村の人々。村の選択は、神々のお告げにより、村一番の土偶職人・アノメの手にゆだねられる。

2019年夏にじょーもひあ宮窓で上演した縄文野外劇を、「上岡遺跡版」として改訂上演！

東北の民衆に残る祭祀から土偶祭創造を創造し、国重要文化財の「しゃがむ土偶」も物語に絡めながら、再構成して上演します！

【出演】アイヌ 萩原功太
シカクンテ 史香
サンブル 鈴木優斗
アシリ 佐藤ひいら
イソンゾ 小橋有理
マキリ 本田真也
サンニヨ 木村晃章
イタク 霧山英美
バテク 増田慶祐
【スタッフ】脚本・演出 清野和也
総合美術 佐藤夏紀
照明 斎藤千聖
音響 清野和也
衣装 川原ゆかり
押切ミタル
小道具 加賀友紀
振付 速成航
制作 加藤友紀



劇団120ENの紹介



◆受賞歴

日本劇作家会東北支部主催
短編演劇コンクール・東北劇の陣(2018年)
・東北王(優勝)ほか5賞

神奈川県主催
神奈川かもめ「短編演劇」フェスティバル2019
・全国選抜団体ミニメート
・審査員特別賞 渡辺えり賞(須田大洋)

ドキドキ 土偶対談 & 縄文時代劇

◆日時◆ 2020年10月24日土 14:00~16:00
◆会場◆ パルセセいいざか コンベンションホール

次 第

開会

第1部 ドキドキ土偶対談

「土偶を活かしたまちづくり」

福島市長 木崎 浩
茅野市長 今井 敦
コーディネーター 岡村 道雄
(奥松島縄文村歴史資料館名誉館長)

第2部 縄文時代劇

「縄文悶々土偶恋幕—上岡遺跡版—」

劇団120EN

閉会



長野県茅野市の紹介

若者に「選ばれるまち」

人口

令和2年8月現在 55,148人

歴史と特徴

昭和30年(1955年)1町8村が合併して誕生した茅野町が、昭和33年(1958年)市制施行となりました。信州八ヶ岳の裾野に広がる自然豊かな高原都市で、国宝2体が出土し、国指定の特別史跡の他、市域を超えた日本遺産にも認定され、5000年前の縄文時代中期には核となる地域の一つでした。

主な産業

製造業、観光業、商業、農業

主な観光

八ヶ岳、蓼科、白樺湖、車山高原等の自然環境、石編み考古館、尖石遺跡、諏訪大社上社前宮等の歴史遺産、スキーやスケート、スノートレッキング等のウインターポーツ、温泉

特産物

寒天、蕎麦、味噌、セルリー、りんご、りんどう、アルストロメリア

縄文や土偶をいかしたまちづくり

豊かな創造性と高い文化が育まれた縄文時代、八ヶ岳の自然に支えられ、自然との共存・共栄、平和、支え合いの生き方等「JOMON」の精神性を今に活かし、縄文に関するPR活動や観光事業、史跡整備事業等を進めることにより、人々が交流する「若者に選ばれるまちづくり」を目指します。

主な史跡

国指定特別史跡尖石器時代遺跡、史跡上之段石器時代遺跡、史跡駒形遺跡、棚畠遺跡、中ツ原遺跡

国宝2体土偶

●仮面の女神

仮面の女神の見所は、逆三角形の顔面です。愛称が「仮面の女神」というのも納得の人間とは見えない顔面表現をしています。

そして、強く胸を張り、真横に大きく作られた脚とあわせて、堂々とした存在感を放つ、見るものも圧する土偶だと思います。

●縄文のビーナス

縄文のビーナスは縄文時代の国宝指定第1号です。この土偶の見所は何といって も縄文とすぐわかるおながです。ふくらんだおなかが前方に出ている分、おしりが背中に張り出し、土偶の中でも写実的な印象が強いのも見どころです。この前後の絶妙なバランスが、背筋を伸ばした凛とした美しさも演出しています。



仮面の女神
縄文のビーナス

長野県
茅野市



福島県福島市の紹介

実・湧・湯・彩(ひわくさんさい) 福島市



福島県
福島市

人口

令和2年8月現在 276,140人

歴史と特徴

福島県の県都で、東北地方に位置し、西は吾妻連峰、東は阿武隈高原に囲まれています。

周囲を高い山々に囲まれているため、泉質の異なる3つの温泉があり、もも、なし、りんごなどといった果物栽培も盛んです。2020年には古閑裕一・金子夫妻をモデルとした朝の連続テレビ小説「エール」が放映され、東京オリンピックでは野球・ソフトボール競技の開催が予定されています。

主な産業

もも、なし、りんごなどを中心とした果物栽培や、農業・観光を基幹産業とし、企業誘致も積極的に進めています。

主な観光

春の花見山、夏のフルーツライン、秋の吾妻山、吾妻スカイライン、冬の坂坡・土湯・高湯温泉といった四季折々の風景が楽しめ、古閑裕一記念館や民家園などといった福島の文化、偉人を学べる施設もあります。

特産物

果物(もも、なし、りんご等)、凍み豆腐、土湯かけ、円盤餃子

縄文や土偶をいかしたまちづくり

史跡公園「じょーもび宮畠」を核に、二つのボランティア団体(じょーもび・遺跡の案内人、じょーもび活用推進協議会)が案内ガイドや体験サポート、宮畠ミステリーを題材にしたイベントなどの企画を行っています。

最近では、「トキッキ博物ふくしまプロジェクト」と銘打ち、福島駅構内に特別展示を行ったり、駅前の商店街でスタンプラリーを行ったりと、様々なイベントも開催しています。

主な史跡

史跡宮畠遺跡(じょーもび
宮畠)、史跡和台遺跡



宮畠遺跡掘立柱建物▶

遺跡の概要

宮畠遺跡は、縄文時代の人々が約2,000年にわたって生活した、南東北を代表する縄文時代の遺跡で、平成15年8月27日に史跡に指定されました。

発掘作業では、晚期の掘立柱建物と幼児の墓、後期のむらともとの送りの場、約半数の竪穴住居が焼失している中期のむらが見つかり、縄文時代の3時期にわたる縄文人のくらしを伝える遺跡です。

しゃがむ土偶

縄文時代後期には具体的なポーズをとる土偶が表れます。しゃがむ土偶もそうしたポーズ土偶の一種です。体を折り曲げていてそこから屈折土偶とも呼ばれています。屈折土偶の中でも特に大きく、かつ精巧な作りであり、写実性において土偶の到達点と言えます。縄文時代の生活の中でしゃがむ姿勢や腕の組み方にどのような意味があるのかはまだわかりませんが、座産の姿勢であるとも言われています。



しゃがむ土偶